

蒲田地区優秀作文

祖母を支える税金

大田区立六郷中学校 二年 松野 千里



私の祖母は、若い頃怪我をしたことがきっかけで、それ以来足が不自由です。祖母は、私が幼い頃から面倒を見てくれて、色々なところに一緒に遊びにも行きました。

ある日、祖父母と遠出をしました。その日は雨でした。普段は杖をついて移動している祖母ですが、雨の日には杖と傘、両方を持つことができないため、傘を差すときは支えになるものがない状態で移動しています。ただでさえ悪天候で足場が悪い中、杖が無いのは祖母本人以上に私が心配でした。私と別れてからも最寄り駅から祖父母の家まで、祖母の足で二十分ほどかかると思っていたので心配でした。しかし、タクシー券を使って、濡れることなく安全に帰宅できた後日聞きました。そこで私は、タクシー券とは何かと気になったので、詳しく調べてみることにしました。祖母が言っていたタクシー券とは、歩行困難な障害者に福祉タクシー、自動車燃料費に使用できる移送サービス券のことです。区から月々三千六百円支給されています。祖母は雨天時だけでなく通院の際や、買い物するときにも利用しています。とても助かっていると言っていました。また、移動に時間がかかってしまうから、疲れてしまうからと遠出を避けていた時期もあったようですが、このタクシー券のおかげでそういった

めらいもなくなったとも言っていました。「出かけた」「という気持ちを後押ししてくれるタクシー券は、筋力や体力の維持にも助けになっており、祖母の生活に欠かせないものになっているのではないかと思います。このようなタクシー券は、税金によって賄われています。その出来事がある前は、税金について知識もなければ、興味を持つ機会もありませんでした。しかし、身近な人の生活に大きく関わっていると知り、税金について考える機会が増えました。

近所の私鉄の駅では、数年ほど前にエレベーターができました。税金の補助により設置が実現したとの表示を見たことがあります。毎回階段を登り降りしていた時間や体力を使う必要がなくなり、祖母はとても喜んでいました。また、ノンステップバスについても、導入することでバス会社の税金が軽くなる仕組みがあって、間接的に税金が使われているそうです。このことを祖母に話すと、優先席やドア付近にも手すりがある車両が増え、乗り降りへの抵抗が以前より少なくなったと言っていました。

中学生の私と直接関係がある税金といえば消費税くらいですが、祖母にとっては、税金のおかげで提供されている施設やサービスはなくてはならないものです。祖母に関係している税金だけでも、こんなに多くのものがあることに驚きました。税金を通して世の中を見ることで、見え方が変わりました。